

(代表質問)

質問日	令和2年11月30日(月)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	創造浜松	議席番号	21	氏名	遠山 将吾
表題	質問内容						答弁者の職名
1 来年度に向けての行財政改革について	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、歳入の減少が予想される中では、行政組織のさらなる効率化などにより限られたリソースの選択と集中を図り、それをもって、市民サービス及び市民生活の質の向上に資すべきである。そこで、行財政改革の今後の進め方について、以下2点伺う。</p> <p>(1) 今後の行財政改革の取組について伺う。</p> <p>(2) 現下の経済環境が与える今後の大規模事業への影響について伺う。</p>						鈴木市長
2 予算編成について	<p>前年度の決算審査でも、予算に対してかなりの不用額が出ており、限られた財源が有効に使われているかについては、再度、基本に立ち返り、丁寧な予算積算、予算執行による規律の引き締めが必要である。特に、予算積算時の精度の向上は、限られた財源を有効に執行するためには非常に重要であるが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 決算の不用額について伺う。</p> <p>ア 決算における不用額に対する考えについて伺う。</p> <p>イ より早い段階での減額補正を行うことへの考えについて伺う。</p> <p>ウ やむを得ない理由以外で発生した不用額抑制のための目標値の設定について伺う。</p> <p>(2) 予算積算の精度向上への取組について伺う。</p>						森本財務部長
3 税外収入について	<p>基本的に行政は、市税等の歳入により行政サービスを提供するという平等な負担により、運営されることが適当だという思いがあるが、以下2点伺う。</p> <p>(1) 広告収入について民間需要の状況について伺う。</p> <p>(2) 地方自治体の財源における広告収入の意義と、今後の方向性について伺う。</p>						森本財務部長
4 行政のデジタル化について	<p>地方自治体が、デジタル化に取り組む目的としては、当然、市民の利便性を追求し、場所・時間・インターフェイスを選ばず、ユーザビリティの高いサービスが提供され、市民生活の質を向上させることが第一であるが、それに加えて、行政手続のデジタル化による職員の業務の簡素化・簡略化につなげることであり、これは一石二鳥となるべき投資であると考えているが、以下3点伺う。</p> <p>(1) 本市のデジタルスマートシティの取組、特に行政のデジタル化の取組の状況について伺う。</p>						鈴木市長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(2) 市長の目指す近い将来での、行政サービスのデジタル化の目標について伺う。</p> <p>(3) 市内のペーパーレス化に向けた文書管理の取組について伺う。</p>	<p>〃</p> <p>金原総務部長</p>
<p>5 行政施策の動画の在り方について</p>	<p>行政でつくる動画については、おおむね全国的に同じようなものが、同じようなタイミングでつくられるため、なかなか、注目されにくいのが常であるが、以下2点伺う。</p> <p>(1) それぞれのテーマに即したターゲットに届くような戦略手法について伺う。</p> <p>(2) 動画の成果指標の考えについて伺う。</p>	<p>朝月デジタル・スマートシティ推進事業本部長</p>
<p>6 専門性の高い人材の確保、人材育成について</p>	<p>今後の本市の浮沈は、専門人材の着想を、いかに本市に恩恵をもたらす施策に落とし込めるかにかかっており、そのためには、本市職員の人材育成も非常に重要であるが、以下3点伺う。</p> <p>(1) 民間専門人材の有効性と兼業の意義、今後の方向性について伺う。</p> <p>(2) 民間専門人材の活用の中で、プロジェクトマネジャーの活用の現状と課題について伺う。</p> <p>(3) 専門性の高い人材の確保と活用について</p> <p>ア 政令指定都市として専門性の高い行政サービスへ対応するための職員の専門性の確保について伺う。</p> <p>イ 実務経験を積んだ専門性の高い人材となった職員をどのくらいの期間、その業務に従事させる仕組みとなっているのか伺う。</p> <p>ウ 職員の専門的業務への定着を進める人事制度、人事評価制度の考えについて伺う。</p>	<p>鈴木市長</p> <p>山名政策補佐官</p> <p>金原総務部長</p>
<p>7 G I G Aスクールについて</p>	<p>国も本市も、G I G Aスクール構想については、非常に前向きであり、こういった未来志向の事業については、大いに賛成である。しかし、インターネットやコンピューターが教育現場にどのような影響をもたらすのか、また、継続した機器の確保やシステム更新等の運用、機器の経年劣化等に対応した予算の確保など、少なからず心配な面もある中で、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 機器の導入と教職員の研修について</p> <p>ア 現在導入を進めている機器の決定の経緯と、今後の更新によるコストに対する考えについて伺う。</p> <p>イ クラウドサービス利用のセキュリティーについて、学習の際にクラウドに蓄積された子供たちのビッグデータの取扱いについて伺う。</p> <p>ウ I C T機器導入に関わる教職員の研修の内容について伺う。</p>	<p>伊熊学校教育部長</p> <p>〃</p> <p>花井教育長</p>

表 題	質 問 内 容	答 弁 者 の 職 名
	<p>(2) プログラミング教育について</p> <p>ア 今回の購入機器の初期状態で、プログラミング教育ができる環境整備に対応をしているのか伺う。</p> <p>イ プログラミング教育は、どの教科の教員が授業をするのか伺う。</p> <p>ウ プログラミング教育は、どのくらいの頻度で行われ、最終的な成果を何とするのか伺う。</p>	花井教育長
8 都市の魅力の創出について	<p>これまでは、観光交流による交流人口の増加、それによる魅力の発信により移住・定住を図ってきたところであるが、今後は、これまで観光のために発信を続けてきた本市の魅力を、よりブラッシュアップして、本市の質の高さを発信していくことが必要である。これまでは、観光やリノベーションの「動」のまちづくりから、今後は、多文化共生や都市文化の醸成の「静」のまちづくりへと、施策やプロモーションのバランスをシフトさせていくことが必要であると考え、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 本市が取り入れる外国人文化の多様性、そこから生み出される新たな価値・文化とは何か、また、その価値や文化が、インターカルチュラルシティ推進に結びつく具体的な施策の方向性について伺う。</p> <p>(2) 今後の魅力あるまちづくりに向けた都市緑化の考えについて伺う。</p> <p>(3) 建物のリノベーションスクールのように、一定区域の都市緑化、ランドスケープアーキテクトなどの専門技術を活用した、土地・場所のリノベーションによる都市の魅力の向上につながる施策の展開について伺う。</p>	<p>鈴木市長</p> <p>長田副市長</p> <p>奥井花みどり 担当部長</p>